

# 在宅勤務進めるYKプランニング

## 新しい働き方で前向きに



岡本社長(左)とテレビ電話で会話をした福岡県在住の社員

新型コロナウイルスの対策で、首都圏を中心に在宅勤務が増え、地方にも広がりを見せている。防府市内では、ソフト開発のYKプランニング(佐波1丁目)が3月に導入を進め、緊急事態宣言のあった翌4月8日から本格的なりもトワー

ク(在宅勤務)を始めた。同社は会計事務所向けの会計システムなどを開発し、全国の事務所に月額制で提供してサポートも行う企業。岡本辰徳社長は「最初は『会社に出ないと仕事をしていない気がする』と従業員も不安を感じていたが、順番

在宅勤務を経験して慣れてもらった。仕事の内容的に移行しやすく、今はみんなが普段通りの仕事ができる」と話す。

従業員約30人のうち3割程度が在宅勤務になった。緊急事態宣言の後は東京などの3支社を閉鎖し、遠方の社員8人も自宅での仕事に切り替わった。インターネットのセキュリティ整備や各自宅で使う備品購入費に約200万円を投じたが、支店の賃貸費や交通費がなくなり、結果的に費用削減につながった。

在宅勤務ではインターネット回線を使ったテレビ電話などが活躍している。朝礼や終礼を全員が出席する形で行い、各部署でも従業員が違う場所にいながら連絡を密にし、円滑にプロジェクト

あなたの土地と住まいのパートナー  
不動産・総合建設

**リンザイ株式会社**  
RINZAI

防府市戎町一丁目10-5 (ニューエビスビル1F)  
☎ (0835) 23-5230

を推進。営業商談や顧客の訪問サポートも行う。紙媒体のデジタル化も進め、書類のやり取りを容易にした。

福岡県で在宅勤務する社員は「在宅勤務という新しい働き方の中で、どういう工夫をしようか考えている。テレビ電話による同僚らとのディスカッションが増え、以前よりもコミュニケーションをとっている」と話した。

岡本社長は「新型コロナウイルスが流行する状況だが、一生懸命に前を向いてやっていきたい」と述べ、新型コロナウイルス収束後も在宅勤務を続けていく考えと

(山本裕貴)